ゴルフ場における芝の農薬使用基準
3. 雑草の防除薬剤（除草剤、抑草用生育調節剤）、使用方法及び使用上の注意事項

平成28年12月31日現在

薬剤名 （有効成分名）	毒性	10a当たり 使用薬量と 希釈水量	使用方法 使用回数	適用雑草											芝への適応性					使用上の注意事項
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草	ハマスゲ	ヒメクグ	メヒシバ	ススメノカタビラ	藻類	コケ類	その他	日本芝	ベントグラス	ブルーグラス	バミューダグラス	その他	
アージラン液剤＊ （アシュラム） ＊商品名：グリーンアージラン液剤、バイエルアージラン液剤		秋～春期（芝発芽前） 薬量：1000～1250ml 水量：200～300ﾘｯﾄﾙ 芝生育期（雑草生育初期） 薬量：400～600ml 水量：200～300ﾘｯﾄﾙ	散布（茎葉兼土壌処理）3回以内	○											○					1. 夏期高温時及び芽立ち期の散布は一時的に黄化を生じる恐れがあるので使用を避ける。 2. カヤツリグサ科雑草に対して効果が劣るので、カヤツリグサ科雑草優占ほ場での使用は避ける。
アグリーン顆粒水和剤 （ピラゾスルフロンエチル）		雑草生育期 薬量：20～30g 水量：150～300ﾘｯﾄﾙ	散布3回以内			○	○								○	○				
		春夏期雑草生育期 薬量：20～30g 水量：150～300ﾘｯﾄﾙ						○	○						○					
アシュラスター液剤 （アシュラム、MDBAカリウム塩）		雑草発生初期 薬量：0.45～0.75ml/㎡ 水量：200～300ml/㎡	雑草茎葉散布又は全面土壌散布3回以内	○											○					1. 高温時及び芽立ち期の散布は一時的に黄化を生ずる恐れがあるので使用を避ける。 2. メヒシバ、スズメノカタビラには効果を安定させるため、4～5葉期までに使用する。 3. ベントグラス等の西洋芝では薬害を生ずるのでかからないように注意すること。
アトラクティブ （クロリムロンエチル）		雑草発生前～生育期 薬量：20～40g 水量：200ﾘｯﾄﾙ	雑草茎葉散布又は全面土壌散布3回以内			○	○								○					
アビシェムフロアブル （エトベンザニド水和剤）		メヒシバ発生前～発生初期（芝生育期） 薬量：1.0～2.0ml/㎡ 水量：100～200ml/㎡	雑草茎葉散布又は全面土壌散布3回以内							○					こうらいしばのみ	○				1.土壌が極端に乾燥していると除草効果が劣ることがあるため、土壌が適当な水分を含んでいるときに散布する。 2.腐植等有機質を多く含む土壌での効果が減ずることがある。
アルテミストフロアブル （アトラジン、メソトリオン）		芝生育期（生育休止期）雑草発生初期 薬量：0.06～0.1ml/㎡ 水量：150～250ml/㎡	雑草茎葉散布または全面土壌散布1回	○										ウラジロチチコグサ	○					1.茎葉の一部に緑色が残っていても、生育の停滞している時期が散布適期で、これ以前に使用すると薬害を生じる恐れがある。 2.砂土、水はけのよい土壌では薬害を生ずるおそれがあるので使用しない。また、雨の多い時期には使用しない。
イデトップフロアブル （トリアジフラム）		芝生育期（雑草発生前～発生初期） 薬量：0.075～0.15ml/m^2 水量：200～300ml/m^2	全面土壌散布2回以内	○											○					張芝直後の芝やターフ形成の不十分な芝では薬害が生じる恐れがあるので使用しない。
インプールDF （ハロスルフロンメチル）		芝生育初期～生育期（雑草発生前～生育初期） 薬量：30～50g 水量：200～300ﾘｯﾄﾙ	散布3回以内			○	○	○	○						○					1. 夏期高温時には葉焼け等の薬害が生じるおそれがあるので使用を避ける。
						○	○									○	○			
ウィーデンWDG （オキサジクロメホン、ヨードスルフロンメチルナトリウム塩）		雑草発生前 薬量：75～100g 水量：200～300ﾘｯﾄﾙ	全面散布2回以内	○			○								○					ライグラスに対して薬害を生じやすいので、ライグラスの周辺やライグラスに直接薬剤がかからないように注意する。

平成28年12月31日現在

薬剤名 (有効成分名)	毒性	10a当たり 使用薬量と 希釈水量	使用方法 使用回数	適用雑草											芝への適応性					使用上の注意事項
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草	ハマスゲ	ヒメクグ	メヒシバ	ススメノカタビラ	藻類	コケ類	その他	日本芝	ベントグラス	ブルーグラス	バミューダグラス	その他	
ウィードロック (オリザリン)		芝生育期(雑草発生前) 薬量:600～800ml 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内	○											生産ほ場、ゴルフ場					1. 張芝直後あるいは根付け直後の芝生には薬害を生じることがあるので使用しない。 2. ベントグラスに対して薬害を生じやすいので、ベントグラス周辺での散布ではベントグラスに直接薬剤がかからないように注意する。
ウェイアップフロアブル (ペンディメタリン)		芝生育期(雑草発生前) 薬量:400～900g 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布3回以内	○ キク科を除く											○			○		ターフ形成前の芝は生育抑制などの薬害が生じるので使用しない。
ウェーブル顆粒水和剤 (カフェンストロール、レナシル)		雑草発生前～発生初期(3葉期まで)(芝生育期) 薬量:200～400g 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内	○											○					ターフ形成した日本芝に使用し、ベントグラスなど寒地型芝草の周辺では散布を控える。
エイゲン水和剤 (ピリブチカルブ)		芝生育期(雑草発生前) 薬量:750～1,500g 水量: 日本芝200～250ﾘｯﾄﾙ 西洋芝250ﾘｯﾄﾙ	散布4回以内		○										○	○	○			1. 生育した芝生に使用する。 2. 乾燥時の散布では使用水量を多めにする。 3.本剤は殺菌剤としても登録のある除草剤である。
カーブSC (プロピザミド)		芝生育期(雑草発生前) 薬量:0.4～0.6ml/㎡ 水量:200～300ml/m^2	全面土壌散布2回以内	○ キク科を除く											○					1. ターフ形成前、萌芽前の芝は生育抑制の薬害が生じるので使用しない。 2. 芝に対する安全性を考慮して秋処理と翌年の春処理の連用を避ける。 3. 処理適期幅は広いが、雑草発生前処理を心掛ける。
		芝生育期(秋冬期スズメノカタビラ発生初期) 薬量:0.4～0.6ml/㎡ 水量:200～300ml/m^2									○				○					
キレダー(水和剤) (ACN)		藻類・コケ類の発生時 薬量:3～4kg 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	散布(噴霧器)3回以内									○	○		こうらいしば のみ					西洋芝には薬害発生の恐れがあるため、高温時には散布しない。
		冬期芝生育期(コケ類の発生期) 薬量:2～4kg 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	散布(噴霧器)3回以内										○			○			
クサレス顆粒水和剤 (ナプロパミド)		雑草発生前(芝生育期) 薬量:400～600g 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布3回以内		○										○					ターフ形成した日本芝に使用し、西洋芝の周辺では散布を控える。
グリーンケアG顆粒水和剤 (ペンディメタリン)		日本芝:雑草発生前 ﾊﾞｰﾐｭｰﾀﾞｸﾞﾗｽ:春夏期雑草発生前 薬量:300～600g 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布3回以内	○ キク科を除く											○			○		1. 発芽後の雑草に対して効果が劣るので、雑草発生前に散布する。 2. 張芝直後あるいは根付け直後の芝生には薬害を生じることがあるので使用しない。
グラッチェ顆粒水和剤 (エトキシスルフロン)		雑草発生前(芝生育期) 薬量:15～30g 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	散布3回以内			○									○					雑草の生育初期までに散布し、時期を失しないようにする。
		雑草生育初期(3葉期まで)(芝生育期) 薬量: 一年生及び多年生広葉雑草30～60g ﾊﾏｽｹﾞ、ﾋﾒｸｸﾞ45～75g 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ				○	○	○	○						○	○	○			
グラメックス水和剤 (シアナジン)		春期雑草発生前 薬量:200～400g 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内	○											○					1.芝の萌芽期以降の散布は黄化褐変等の薬害を生ずるおそれがあるのでさける。

平成28年12月31日現在

薬剤名 (有効成分名)	毒性	10a当たり 使用薬量と 希釈水量	使用方法 使用回数	適用雑草											芝への適応性					使用上の注意事項
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草	ハマスゲ	ヒメクグ	メヒシバ	ススメノカタビラ	藻類	コケ類	その他	日本芝	ベントグラス	ブルーグラス	バミューダグラス	その他	
クロステクト水和剤 (マンゼブ・ミクロブタニル水和剤)		発生初期 薬量:3g/㎡ 水量:0.5リットル/㎡	散布3回以内									○				○				1.石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性薬剤、チオジカルブ剤と混用しない。 2.ボルドー液との7日以内の近接散布は、薬害を生ずる恐れがあるので避ける。 3.夏期高温時の連用散布は行わない。
コンクルード顆粒水和剤 (フルポキサム)		雑草発生前 薬量:150～300g 水量:200～300リットル	散布2回以内	○											○			○		
ザイトロンアミン液剤 (トリクロピルトリエチルアンモニウム)		雑草生育期 薬量:200～600ml 水量:150～200リットル	雑草茎葉散布3回以内			○	○								○					1. 夏期高温時や芝の生育が劣っている場合には薬害(黄変等)の程度が大きくなるので使用しない。 2. 雑草発生前～発生初期の処理では効果が劣るので、雑草が生え揃った後の雑草生育期に散布する。
サプライズフロアブル (オキサジアルギル、オキサジクロメホン)		雑草発生前 薬量:100～200ml 水量:200～300リットル	散布2回以内	○											○					
芝用エコパートFL(ピラフルフェンエチル)		秋期芝生育期 (雑草生育初期) 薬量:100～150ml 水量:100～200リットル	雑草茎葉散布1回			○										○				
		春夏期芝生育期 (雑草生育初期) 薬量:400～600ml 水量:100～200リットル	雑草茎葉散布 2回以内		○		○									○				
		春夏期芝生育期 (コケ類生育期) 薬量:200～600ml 水量:100～200リットル	雑草茎葉散布 2回以内										○			○				
		芝休眠期 (雑草生育初期) 薬量:150～200ml 水量:100～200リットル	雑草茎葉散布 1回			○									こうらいしばのみ					
シバゲンDF (フラザスルフロン)		雑草発生初期 薬量:10～30g 水量:100～200リットル 秋冬期雑草発生前 薬量:10～30g 水量:200～300リットル	散布3回以内	○			○								○			○		1.雑草発生初期までに散布する。 2.茎葉処理の場合には展着剤を加用する。
		春夏期雑草発生初期 薬量:ヒメクグ10～30g ハマスゲ、スズメノヒエ 20～40g 水量:100～200リットル						○	○						○			○		
									○					スズメノヒエ	○					
シバッチ乳剤(S-メトラクロール)		雑草発生前(芝生育期) 薬量:0.2～0.4ml/㎡	全面土壌散布 3回以内	○											○					1. 寒地型西洋芝では薬害を生じる恐れがあるので使用しない。 2. 樹木・花にかかると薬害を生じる恐れがあるので注意する。 3.ヒメクグに使用する場合は、1回目処理はヒメクグ発生前に、2回目処理はヒメクグ発生前から発生初期に散布する。
		ヒメクグ発生前～発生初期(芝生生育期) 薬量:0.25～0.4ml/㎡ 水量:200～300ml/㎡							○						こうらいしばのみ					
スコリテック液剤 (メコプロップPカリウム塩)		芝生育期(雑草生育期) 薬量:250～500ml 水量:200リットル	雑草茎葉散布3回以内			○	○								○		○			1. 低温時(10℃以下)の散布は、効果が劣ることがあるので使用を避ける。 2. 重複散布をすると薬害を生じるおそれがあるので、重複散布を避ける。

平成28年12月31日現在

薬剤名 (有効成分名)	毒性	10a当たり 使用薬量と 希釈水量	使用方法 使用回数	適用雑草											芝への適応性					使用上の注意事項
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草	ハマスゲ	ヒメクグ	メヒシバ	ススメノカタビラ	藻類	コケ類	その他	日本芝	ベントグラス	ブルーグラス	バミューダグラス	その他	
スパーダ顆粒水和剤		芝生育期(雑草発生前) 薬量:0.15～0.3g/㎡ 水量:200～300ml/㎡	全面土壌散布3回以内		○										○					
		春夏期芝生育期(ヒメクグ発生前～発生初期) 薬量:0.15～0.3g/㎡ 水量:200～300ml/㎡	全面土壌散布3回以内						○ (抵抗性○)						こうらいしばのみ					発生初期のヒメクグに散布する場合は所定の高薬量で散布する(効果)。
		秋冬期芝生育期(雑草発生前) 薬量:0.15～0.3g/㎡ 水量:200～300ml/㎡	全面土壌散布3回以内		○													○		
スペクタクルフロアブル (インダジフラム)		雑草発生前 薬量:20～30ml 水量:200～300リットル	全面土壌散布2回以内	○											○					寒地型芝にかかると薬害が発生するため、十分に離して散布する。
ターザインプロDF (イソキサベン、フロラスラム)		芝生育期(雑草発生初期) 薬量:30～50g 水量:150～200リットル	雑草茎葉散布又は全面土壌散布2回以内			○	○								○		○			1. 展着剤を加用し、雑草の茎葉部に均一に付着するように散布する。 2. 本剤は遅効性で、雑草が完全に枯れるまでに春夏期で2～3週間、秋冬期で4～6週間程度かかる。
ダコグリーン顆粒水和剤 (チウラム・TPN水和剤(顆粒))		芝生育期(藻類発生前) 薬量:2g/平方メートル 水量:0.5リットル/平方メートル	散布8回以内									○			こうらいしばのみ	○				1. 強アルカリ性の薬剤との混用は避ける。 2. 夏期高温時の散布は、葉が褐色または黄化することがあるため注意する。
ダコニールターフ(フロアブル) (TPN)		芝生育期(藻類発生前) 薬量:1.0～1.54ml/㎡ 水量:1,000ml/㎡	散布8回以内									○			○	○				1. 本剤は藻類とコケ類に対して適用のある殺菌剤である。 2. 病害に対する使用基準は、病害の防除薬剤の項参照。 3. 眼に対して刺激性があるので注意する。
		芝生育期(藻類発生初期) 薬量:2ml/㎡ 水量:500ml/㎡										○				○				
		春夏期芝生育期(コケ類生育初期) 薬量:2ml/㎡ 水量:500ml/㎡											○			○				
ダブルアップDG (シクロスルファムロン)		芝生育期 (雑草発生前～生育初期) 薬量:30～60g 水量:200～250リットル	全面土壌散布3回以内			○									○		○		ライグラス	処理時期は雑草発生前～生育初期であるが、雑草発生前の処理効果がより安定している。
ディクトラン乳剤 (ジチオピル)		芝生育期(雑草発生前) 薬量:0.15～0.3ml/m^2 水量:200～300ml/m^2	散布2回以内	○											○					1. 生育した日本芝に使用する。 2. 雑草の発生前に散布する。 3. 乾燥時は水量を多めにする。
		春期芝生育期(雑草発生前) 薬量:0.075～0.15ml/m^2 水量:200～300ml/m^2			○										○					
デスティニーWDG (ヨードスルフロンメチルナトリウム塩)		雑草発生前～発生初期 薬量:15～20g 水量:200～300リットル	全面散布2回以内			○	○								○					雑草の生育初期までに散布し、時期を失しないようにする。
ドウグリン水和剤 (有機銅)		藻類発生前、コケ類発生前～生育期 希釈倍数:80～120倍 使用方法:0.2～0.3リットル/㎡散布	散布3回以内									○	○			○				1. 本剤は藻類、コケ類に対して適用のある殺菌剤である。 2. 病害に対する使用基準は、病害の防除薬剤の項参照。

平成28年12月31日現在

薬剤名 (有効成分名)	毒性	10a当たり 使用薬量と 希釈水量	使用方法 使用回数	適用雑草											芝への適応性					使用上の注意事項
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草	ハマスゲ	ヒメクグ	メヒシバ	ススメノカタビラ	藻類	コケ類	その他	日本芝	ベントグラス	ブルーグラス	バミューダグラス	その他	
トリビュートOD (ホラムスルフロン)		春夏期芝生育期(雑草発生初期～生育期) 薬量:200～250ml 秋冬期芝生育期(雑草発生初期～生育期) 薬量:150～250ml 水量:100～200ﾘｯﾄﾙ スズメノヒエ類、チガヤ 薬量:200～300ml/m^2 水量:100～200ﾘｯﾄﾙ	雑草茎葉散布3回以内	○			○								○			○		1. 貯蔵中に分離することがあるので、使用に際しては容器をよく振ること。 2. 散布日前後の最高気温が25℃以上となると、軽微な薬害(黄化)を生じることがあるので使用を控える。 3. 寒地型西洋芝では薬害を生じる恐れがあるので使用しない。
														スズメノヒエ類、チガヤ	○					
ハーレイDF (リムスルフロン)		春期～夏期(雑草発生揃期～生育初期) 薬量:7.5～15g 秋期～冬期(雑草発生揃期～生育初期) 薬量:5～7.5g 水量:150～200ﾘｯﾄﾙ	雑草茎葉散布3回以内	○											○					1. 展着剤(非イオン系)を加用し、雑草の茎葉部に均一に付着するように散布する。 2. ターフ形成した日本芝に使用し、洋芝では薬害が生じるので使用しない。
バサグランターフ (ベンタゾン)		春夏期雑草生育期(芝生育期) 薬量:0.5～1ml/㎡ 水量:100～200ml/㎡	雑草茎葉散布3回以内	○ イネ科除く					○						○					
バナフィン顆粒水和剤 (ベスロジン)		雑草発生前 薬量:ﾍﾞﾝﾄｸﾞﾗｽ・ﾌﾞﾙｰｸﾞﾗｽ500～700g、日本芝400～700g 水量:250～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内		○										○	○	○			1. ターフ形成前の芝は薬害を生じるおそれがあるので使用しない。 2. グリーンやベントグラスの低く刈り込まれた場所では、薬害を生じる場合があるので使用しない。
ハプーン乳剤 (アラクロール)		春夏期雑草発生前 薬量:0.6～1.0ml/㎡ 水量:250ml/㎡	全面土壌散布3回以内	○											○					1. タデ科、アカザ科などの広葉雑草には効果が劣るので、イネ科雑草優占ほ場で使用する。
		秋冬期雑草発生前 薬量:0.6～1.2ml/㎡ 水量:250ml/㎡		○											こうらいしばのみ					
		春夏期ﾋﾒｸｸﾞ発生前～発生初期 薬量:0.6～1.0ml/㎡ 水量:250ml/㎡							○						こうらいしばのみ					
		春夏期雑草発生前 薬量:0.6～1.0ml/㎡ 水量:200～300ml/㎡		○													ｹﾝﾀｯｷｰﾌﾞﾙｰｸﾞﾗｽのみ			
バリケードフロアブル (プロジアミン)		春夏期雑草発生前 薬量:125～250ml 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ 秋冬期雑草発生前 薬量:140～260ml 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内	○ キク科を除く											○			○		
フェナックスフロアブル (オキサジアルギル)		雑草発生前(芝生育期) 薬量:100～200ml 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内	○											○					1. ナデシコ科雑草には効果が劣るので優占ほ場では使用を避ける。 2. 日本芝生育期の使用で黄化が生じる場合があるが、1～2週間で回復する。

平成28年12月31日現在

薬剤名 (有効成分名)	毒性	10a当たり 使用薬量と 希釈水量	使用方法 使用回数	適用雑草											芝への適応性					使用上の注意事項
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草	ハマスゲ	ヒメクグ	メヒシバ	ススメノカタビラ	藻類	コケ類	その他	日本芝	ベントグラス	ブルーグラス	バミューダグラス	その他	
ブラスコンM液剤 (MCPAイソプロピルアミン塩)		春夏の雑草生育初期 (芝生育期) 薬量:一年生広葉雑草、チドメグサ0.5～1.0ﾘｯﾄﾙ、多年生広葉雑草1～1.5ﾘｯﾄﾙ 水量:200ﾘｯﾄﾙ 秋冬の雑草生育初期 (芝生育期) 一年生広葉雑草、多年生広葉雑草 薬量:1～1.5ﾘｯﾄﾙ	雑草茎葉散布3回以内			○	○							ﾁﾄﾞﾒｸﾞｻ	○					1. 日本芝の春夏の雑草発生初期散布はﾁﾄﾞﾒｸﾞｻにも効果がある。 2. 夏期高温時には薬害が発生することがあるので使用を避ける。 3. 萌芽期の使用は避け、完全に生え揃った後に散布する。
		雑草生育初期(芝生育期) 薬量:0.75～1.5ﾘｯﾄﾙ 水量:200ﾘｯﾄﾙ				○	○										○		○ ﾌｪｽｸ、ﾗｲｸﾞﾗｽ	
フルスロット顆粒水和剤 (ベンフレセート)		春夏期雑草発生初期～3葉期 薬量:0.2～0.3g/㎡ 水量:100～200ml/㎡	雑草茎葉散布2回以内								○						○			1. 芝生育期に散布する。 2. 芝生の中や付近にある樹木類にかかると薬害を生じるので、飛散しないように注意する。
		春夏期雑草発生初期～3葉期 スズメノカタビラ 薬量:0.2～0.3g/㎡ メヒシバ 薬量:0.15～0.3g/㎡ 水量:100～200ml/㎡								○	○					○				
		秋冬期雑草発生初期～3葉期 薬量:0.1～0.2g/㎡ 水量:100～200ml/㎡			○											○				
フルハウスフロアブル (オキサジクロメホン)		雑草発生前(芝生育期) 薬量:75～150ml 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内		○										○					1. 芝生育期に散布する。 2. 乾燥時は水量を多めにする。
プレエム550粒剤 (ペンディメタリン)		春夏期雑草発生前 薬量:15～20g/m^2 秋冬期雑草発生前 薬量:15～25g/m^2	全面土壌散布3回以内	○ キク科を除く													○			緩効性ポリマー硫黄コーティング肥料(NPK＝244.58)をベースとした除草剤である。
		雑草発生前 薬量:20～25g/m^2		○ キク科を除く											○					
ブロードケア顆粒水和剤 (フルセトスルフロン)		芝生育期(雑草発生初期) 薬量:0.03～0.06g/m^2 水量:100～200ml/m^2	散布3回以内			○	○								○	○				
								○	○						こうらいしばのみ					
		春夏期芝生育期(雑草発生初期) 薬量:0.03～0.06g/m^2 水量:100～200ml/m^2				○	○										ｹﾝﾀｯｷｰﾌﾞﾙｰｸﾞﾗｽ のみ	○		
プロテクメートWDG (プロピネブ)		藻類発生始期(芝生育期) 薬量:2～3g/㎡ 水量:0.5ﾘｯﾄﾙ/㎡	散布6回以内									○				○				

平成28年12月31日現在

薬剤名 (有効成分名)	毒性	10a当たり 使用薬量と 希釈水量	使用方法 使用回数	適用雑草											芝への適応性					使用上の注意事項
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草	ハマスゲ	ヒメクグ	メヒシバ	ススメノカタビラ	藻類	コケ類	その他	日本芝	ベントグラス	ブルーグラス	バミューダグラス	その他	
ペンコシャイン水和剤 (オキスポコナゾールフマル酸塩、マンゼブ)		藻類発生期 167倍(薬量として3g/㎡) 水量:0.5ﾘｯﾄﾙ/㎡	散布3回以内									○				○				1. ﾎﾞﾙﾄﾞｰ液との近接散布は薬害のおそれがあるので避けること。
モニュメント顆粒水和剤 (トリフロキシスルフロンナトリウム塩)		雑草発生初期～生育期 薬量:3～6g 水量:150～250ﾘｯﾄﾙ	雑草茎葉散布又は全面土壌散布2回以内	○											○			○		1.西洋芝を使用しているグリーン周辺では使用しない。 2. 降雨が予想される場合は散布しない。 3. 春期における高薬量での使用は萌芽遅延や黄化の可能性がある。
		春夏期雑草発生初期～生育期 薬量:ヒメクグ3～6g、スズメノヒエ類4.5～6g 水量:150～250ﾘｯﾄﾙ							○					ｽｽﾞﾒﾉﾋｴ類	○					
		雑草発生初期～出穂前 薬量:4.5～6g 水量:150～250ﾘｯﾄﾙ												チガヤ	○					
モノクターフロアブル (ジラム)		芝生育期(藻類生育期) 薬量:2～4ml/㎡ 水量:200ml/㎡	散布8回以内									○				○				1. 本剤は藻類に対して適用のある殺菌剤である。 2. 病害に対する使用基準は、病害の防除薬剤の項参照。 3. 石灰硫黄混合剤及びボルドー液との混用は避ける。無機銅を含む剤との混用及び近接散布は、薬害を生じる恐れがあるので使用を避ける。 4. 夏季高温時の連用散布は薬害を生じる恐れがあるので、連用を避ける。 5. 十分な効果が得られない場合は、14日前後の間隔で反復処理を行う。
ユニゾン水和剤 (ベンチオピラド・マンゼブ水和剤)		藻類発生初期 薬量:3g/㎡ 水量:0.5ﾘｯﾄﾙ/㎡	散布3回以内									○			こうらいしばのみ	○				1.藻類が著しく繁茂した状態では効果が劣ることがあるので、時期を失しないように散布する。 2.夏期高温時に連用散布は、黄変などの薬害が生ずるおそれがあるので、連用を避ける。
ユニホップ (メタミホップ)		春夏期雑草生育期(芝生育期) 薬量:0.1～0.3ml/㎡ 水量:100～200ml/㎡	雑草茎葉散布3回以内							○						○	ｹﾝﾀｯｷｰﾌﾞﾙｰｸﾞﾗｽのみ		ライグラス	1. 激しい降雨が予想される場合は使用を避ける。
					○										○					
ラウンドアップ(液剤) (グリホサートイソプロピルアミン塩)		雑草生育期 希釈倍率3～6倍 使用液量3～6ﾘｯﾄﾙ	雑草茎葉塗布3回以内	○		○	○								芝(ラフ等)					1. 非選択性除草剤のため、芝休眠期の使用が原則となる。芝の生育期の処理では芝に薬液が付くと芝が枯死するので注意する。 2. 塗布後7～10日以内は雑草の刈取りはしない。
		雑草生育期 希釈倍率5～10倍 使用液量3～9ﾘｯﾄﾙ		○		○	○								のしばのみ					
ラポストフロアブル (カフェンストロール)		雑草発生前 薬量:250～500ml 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内		○				こうらいしばのみ						○					1. 乾燥時は水量を多めにする。
ロンセイバー (イマゾスルフロン)		春夏期芝生育期(雑草発生前～発生初期 薬量:0.1～0.2g/㎡ 水量:200～300ml/㎡	雑草茎葉散布又は全面土壌散布2回以内			○	○									○				1. 張芝直後あるいは根付け直後の芝生には薬害を生じることがあるので使用しない。 2. ライグラスに対して薬害を生じる恐れがあるので、ライグ ラスの周辺やライグラスに薬剤がかからないように注意する。
		春夏期芝生育期(雑草発生初期) 薬量:0.1～0.2g/㎡ 水量:200～300ml/㎡							○						○					
		メヒシバ 春夏期芝生育期(メヒシバ発生前) 薬量:0.1～0.2g/㎡ 水量:200～300ml/㎡								○			○		こうらいしばのみ					
		芝生育期(雑草発生前～ 発生初期) 薬量:0.1～0.2g/㎡				○	○								○					

平成28年12月31日現在

薬剤名 (有効成分名)	毒性	10a当たり 使用薬量と 希釈水量	使用方法 使用回数	適用雑草											芝への適応性					使用上の注意事項
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生広葉雑草	ハマスゲ	ヒメクグ	メヒシバ	ススメノカタビラ	藻類	コケ類	その他	日本芝	ベントグラス	ブルーグラス	バミューダグラス	その他	
ロングパワーフロアブル (オキサジクロメトホン)		雑草発生前(芝生育期) 薬量:75～150ml 水量:200～300ﾘｯﾄﾙ	全面土壌散布2回以内		○										○					1. 貯蔵中に分離することがあるので、容器をよく振ってから使用する。 2. 寒地型芝にかかると薬害が発生するため注意する。
MCPP液剤 (MCPPカリウム)		雑草生育期 薬量:500～1,000ml 水量:100～200ﾘｯﾄﾙ	全面茎葉散布3回以内			○								クローバー	○		○			1. 夏期高温時の使用は芝の茎葉を黄化させることがある。また、ターフ形成前や萌芽前の使用は生育抑制が見られるため注意する。 2. 10℃以下の低温時には効果が劣る。
グリーンフィールド水和剤 (フルルプリミドール)		芝生育期(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ生育期) 薬量:0.025～0.05g/㎡ 水量:100～300ml/㎡	全面均一散布8回以内								○ 密度低減					○				
ドラード液剤 (ペンジルアミノプリン)		春夏期 芝生育期(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ出穂前～出穂初期) 薬量:0.6～1.2ml/㎡ 水量:100～200ml/㎡	雑草茎葉散布 3回以内								○ 出穂抑制					○	ｹﾝﾀｯｷｰﾌﾞﾙｰｸﾞﾗｽ のみ			1. 反復処理する場合は、3週間程度の散布間隔をあけて使用すること。 2. 調整した薬液は放置すると効果が不安定になるため、速やかに使用する。 3. 気温が25℃以上に推移した場合、芝草の生育が緩慢になる時期、過度なストレス(踏圧や日陰など)での使用は薬害が生じる可能性があるため、使用を控える。 4. 本剤の登録上における用途は植物成長調整剤に分類されている。
		春夏期 芝生育期(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ出穂前～出穂初期) 薬量:0.3～0.6ml/㎡ 水量:100～200ml/㎡	ｴﾃﾎﾝ21.5%液剤を1平方メートルあたり1.0ﾐﾘﾘｯﾄﾙ加用のうえ雑草茎葉散布								○ 出穂抑制					○				
プロキシ液剤 (エテホン)		スズメノカタビラ出穂前 薬量:1.0～1.5ml/㎡ 水量:100～200ml/㎡	雑草茎葉散布3回以内								○ 出穂抑制					○	ｹﾝﾀｯｷｰﾌﾞﾙｰｸﾞﾗｽ のみ			1. 原液は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調整時には保護眼鏡を着用して薬剤が目に入らないようにすること。 2. 効果を安定させるため反復処理を行う場合は、1ヶ月程度の間隔で反復処理すること。 3. 散布後に芝に黄変等の薬害を生じることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育には影響を与えない。
ショートキープ液剤 (ビスピリバックナトリウム塩)		芝生育期(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ出穂前まで) 薬量:100～200ml 水量:100～200ﾘｯﾄﾙ	雑草茎葉散布3回以内								○ 出穂抑制					○	○			1. 初めて使用する場合は、小面積での試験にとどめ、薬剤の特長を確認する。 2. 均一散布可能な散布器具を使用し、重複散布を避けるため着色剤を加用する。 3. 薬剤散布直後の潅水は控える。 4. 薬剤散布前後の更新作業は控える。 5. 夏期高温時及び低温期(秋期～早春)には使用しない。 6. ベントグラスが強いストレスを受けている状態(高温、乾燥、根上り等)では使用しない。
		春夏期雑草生育期　芝生育期 薬量:500～1000ml 水量:100～200ﾘｯﾄﾙ				○	○								○					
		春夏期芝生育期(ﾒﾘｹﾝｶﾙｶﾔ生育期) 薬量:0.75～1.0ml/㎡ 水量:100～200ml/㎡												メリケンカルカヤ	のしばのみ					